



志を立てる

2月9日、本校2年生が「立志ラリー」として、高校めぐりをしてきました。「立志」とは、「志を立てること。将来の目的を定めて、これを成し遂げようとする事」です。1年後の高校進学を見すえ、三観地区の高校（観音寺第一、観音寺中央、笠田、高瀬、香川西）を訪問することによって、自分の進路を考え、将来の夢を実現させようとする態度を育成することを目的に実施しました。天候にも恵まれ、詫間から観音寺までを歩いた（片道は電車を利用）ことで、苦しさに負けない体力や精神力も身についたことでしょう。

一方、3年生は自己推薦の合格発表があり、非常に厳しい現実を突きつけられました。しかし、本当の勝負はこれからです。合格したからと気がゆるんでしまった人と、次こそは絶対に合格するんだと必死で勉強した人との差は、1か月後には大きな差となります。夢を実現しようとする「今」が大切なのです。

さて、インターネットを見ていると、ある言葉が目にとまりました。「お前が無駄に過ごした“今日”は昨日死んだ誰かが死ぬほど生きたかった“明日”なんだ」という言葉です。出典を調べてみると、『カシコギ』（趙昌仁、サンマーク出版）という本の中にある「あなたが虚しく過ごした今日という日は、昨日死んでいった者があれほど生きたいと願った明日なのだ」という言葉だそうです。

3年生は、公立高校入試まであと24日となりました。1・2年生にとっても、自分の進路を考える上で大切となる「学習の診断」まであと2日です。「あのときもっとやっておけばよかった」と後悔しないためにも、今日一日を大切に、「死に物狂い」でがんばりましょう。

バレンタインデーに思う

バレンタインデー（St. Valentine's Day）は、269年にローマ皇帝の迫害下で殉教した聖ウァレンティヌス（バレンタイン）に由来する記念日であることから、世界各地で男女の愛の誓いの日とされています。その形は、国によって様々ですが、日本では、女性が男性にチョコレートを渡すことによって愛を伝える日として受け止められています。愛するという事は人間として大切な心であり、人間らしい心が失われつつある今の時代だからこそ、愛を伝えるという行為はとても素晴らしいことだと思います。

ところが、最近は、上司や同僚などの恋愛感情を伴わない相手に贈る「義理チョコ」、女性が女性へ贈る「友チョコ」、男性が女性に贈る「逆チョコ」など、様々な展開で消費の活性化が図られています。また、チョコレートにこだわらず、クッキーなどを贈る人もいます。このように、商業活動が活発になるとともに、マスコミ等の刺激を受けて、愛を伝えるという行為よりも、チョコレートを渡すという行為だけが目立ち、だれにでも渡したり、催促したりする光景も見かけます。また、「もらった・もらわない」「あげた・あげない」で、人間関係が壊れてしまうケースもよくあります。それはまるで、チョコレートという商品で、人の心をもて遊んでいるようにも思えます。

「愛する」とは、「好き」というだけでなく、相手を「大切にする」という気持ちも込められています。この日の意味を本当にわかっているのなら、トラブルを起こしたり、校内にチョコレートの紙くずが落ちていたりすることは無いはず。「愛する」ことの意味をしっかりと考える一日であってほしいと思います。（※平成22年度「浦島伝説」No43再掲）

三豊市のHPに載っています

先日行われたマーガレットの贈呈式の様子が、NHKと西日本放送で放映されました。また、三豊市ホームページ「みとよHOTほっとNEWS」にも載っています。右の写真はその一部です。ぜひご覧になってください。

なお、この贈呈式は、三豊市内のすべての中学校で行われるため、新聞には、同じ日に行われた仁尾中学校の様子が掲載されていました。

